

検証 JR革マル浸透と組織私物化の実態！

民主化闘争情報 [号外] 2009年4月20日 発行 日本鉄道労働組合連合会 (JR連合) 【No. 5】

JR総連単組で革マル組織の建設進む！

警察が作成したと確実視される「綾瀬アジト」押収資料による分析資料には、JRへの革マル派の浸透について、数多くの驚くべき記載がある。宗形明著「異形の労働組合指導者『松崎明』の誤算と蹉跌」の記述に基づき、順次内容を紹介し、検証を進めていく。

JR各社内に革マル派組織の建設進む、何とJR四国労組内にも！

本号では、まず「JR内革マル派組織」について検証したい。

JR内革マル派組織

昭和62年4月1日の国鉄分割・民営化以降、松崎明を筆頭に、JR総連傘下の旧動労系のすべての労組は、表見的には「革マル派との無関係」を強調し、機関紙等でも「国鉄委員会」に替わる「JR委員会」の存在については一切明らかにしていなかったが、今回の押収資料により「JR委員会」の存在を確認したほか、JR各社内に革マル派組織が建設されていることを確認した。なお、JR四国にはJR総連傘下の組合は無いが、JR連合に加盟しているJR四国労組の中でも革マル派の組織作りが進められている。 後略

JR委員会指導部の実態

中央労働者組織委員会の中には、「トラジャ」と呼ばれる「JR出身の常任委員」約10名がいて、これらの者が「マンガローブ」と呼ばれる「JR委員会」に所属する約150名の指導的メンバーを指導していた。 中略

現在は、これら組織の再編が行われているものとみられるが、中央労働者組織委員会がJR革マル派組織を指揮下に置き、指揮・指導していることに変わりはない。

革マル派構成員のランク、資格など

革マル派構成員は、大きく分けて、「同盟員」「非同盟員」からなる。「非同盟員」は、活動歴、思想性、組織性等から、更にランク分けされ、「FLC」(フラクション指導部)、「RF」(革命的フラクション)、「LF」(左翼的フラクション)、「学習会」等の活動単位にそれぞれ編入されている。また、どのランクにも属さない思想的水準が低く、経験の浅い者を「LD」(解放)〔注：革マル派機関紙「読者」〕と位置付けている。これらの組織内でのランクを証明する「証明書」等はなく、しかも、誰が同盟員であるかは組織内でも明らかにしていないので、一部の幹部しか知らないことになっている。

JR内革マル派

JR総連内の革マル派構成員は約600人とみられるが、この中から選ばれた約120人が、JR総連傘下の各労組内革マル派組織を指導している。

何と、JR総連の各単組で革マル派組織が建設され、600人の革マル派構成員が、約10人のトラジャが指導する、約150人のマンガローブの指導の下にうごめいているというのである！四国にはJR総連系の組合はないが、JR連合加盟のJR四国労組内に革マル派が潜り込んで、秘密裏に組織作りを進めている危険が非常に高い。

警察作成とみられるこの資料の信憑性はきわめて高い。これは、わが国の治安上からも、JRの安全上からも、絶対に見過してはならない国家的な重要問題だ！